

様式【学校評価資料】

A:達成している, B:概ね達成している, C:あまり達成していない, D:達成していない

総社東小学校

学校 経営 目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 人を大切にする児童の育成	①教職員の率先垂範と児童会主体の挨拶運動により、気持ちのよい挨拶ができる児童を育成する。 (礼儀正しい子供)	①学校評価質問紙(「進んで挨拶」の項目)での肯定的回答の割合が上昇 【児童】90% 【保護者】80% (「気持ちのよい挨拶」ができる児童の育成の項目〔新設〕) 【教職員】100%	学校評価質問紙(7月) 【児童】90.4%○ R3後期比 2.2%↑ 【保護者】75.6%△ R3後期比 0.1%↓ 【教職員】100%○(新設)	B	・気持ちのよい挨拶の具体「顔を見て・明るい声で・自分から」について継続した呼び掛けと称揚を行う。気持ちのよい挨拶とは、自分と相手だけでなく、周囲の人も気持ちよくなることについて触れ、意欲を高める。 ・児童会と自主参加の挨拶ボランティアによる朝の挨拶運動を継続する。 ・6年生が中心となり「挨拶きらめきカード」を渡したり、「挨拶スタンプカード」を押したりする期間を設けるなどして、挨拶運動をきっかけにして校内でも進んで挨拶ができる児童を育てる。	学校評価質問紙(12月) 【児童】90.4%○ R4前期比 1.0%↑ 【保護者】74.1%△ R4前期比 1.5%↓ 【教職員】100%○(新設)	B	・90.4%の児童は進んで挨拶ができていると肯定的に自己評価しているが、保護者評価が74.1%と低い。そこで、次年度も「顔を見て・明るい声で・自分から」を合言葉に、継続した呼び掛けと称揚を行っていきたい。 ・児童会と自主参加の挨拶ボランティアによる朝の挨拶運動を継続する。(厳寒期・厳暑期は行わない)	・見守りボランティアの方から、挨拶がよくできていると言われたり、地域の方の推薦で「わかば賞」を受賞したりしているのでA評価でもいいのではないかと。 ・保護者アンケートの「お子様は進んで挨拶している」の項目に「家では」を入れる等質問の仕方を工夫するとよい。
	②児童が認め合う場(目的を明確にしたピア・サポート、SEL、協同学習、異年齢集団活動の機会)を増やすことにより、他へ積極的に関わろうとする児童を増やすとともに、自己肯定感の高揚を図る。 (心優しい子供)	②アセス「6領域学校環境適応感尺度」 【友人サポート】60Pを維持【向社会スキル】58P ②学校評価質問紙での肯定的回答の割合が上昇 【児童】ア 友達を大切にし仲良く生活している:97%を維持 【児童】イ 自分にはよいところがある:85% 【児童】ウ 先生はよいところを認めてくれる:95% 【保護者】学校は児童が互いに認め合う学校・学級づくりに取り組んでいる:93% ③いじめの早期解決(3か月以内)100%	②アセス(7月) 【友人サポート】60.8 前年比 1.8P↑○ 【向社会スキル】59.6 前年比 3.3P↑○ ②学校評価質問紙(7月) 【児童】ア 98.2%○ R3後期比 1.1%↑ 【児童】イ 88.2%○ R3後期比 6.3%↑ 【児童】ウ 96.0%○ R3後期比 4.4%↑ 【保護者】96.9%○ R3後期比 4.4%↑	A	・望ましい行動をしている児童に渡す「きらめきカード」を全児童に学期に1枚以上渡せるように、全職員で取り組む。 ・アセスについての研修、結果の分析を行い、個々の児童や学級の状況の把握の一助とし、児童理解や学級経営の充実に繋げる。 ・「SEL取組チェック表」で、各担当が計画的にSEL(社会的なスキルを身に付ける学習)やPBIS(ポジティブな行動介入と支援)が取り組めているかの確認を確実に行う。	②アセス 2月実施 ②学校評価質問紙(12月) 【児童】ア 97.5%○ R4前期比 0.7%↓ 【児童】イ 85.7%○ R4前期比 2.5%↓ 【児童】ウ 94.4%△ R4前期比 1.6%↓ 【保護者】94.4%○ R4前期比 2.5%↓ ③100%○	B	・各種行事や異年齢集団活動のねらいや身に付けさせたい力を明確にし、児童が自身の成長を振り返ることを積み重ねる場を設定することで、自己存在感・自己肯定感の高揚を図る。 ・望ましい行動をしている児童に渡す「きらめきカード」を全児童に学期に1枚以上渡す取組を継続する。	・児童アンケート「先生はよいところを認めてくれる」の項目は95%と達成基準が高く、94.4%の児童が肯定的回答をしているので、Aでもよいのではないかと。
	③教育相談や毎月の生活アンケートにより、いじめの早期発見・早期対応に努める。	③いじめの早期解決(3か月以内)100%	③	C	・全学年で「話し合いの目的」を明確に示し、児童が話し合った意義を感じられる授業を行う。 ・全国・県学力調査、学力定着状況確認テスト結果について、学力向上担当のみでなく、各担任(授業者)が分析を行い、2学期以降の教材選定を行い、計画的な取組を継続する。 ・朝学習やパワーアップタイムのねらいを再確認し、事前に計画表の確認・担当による助言を行う。	【児童】エ 91%○ R4.7月比 4%↑ 【児童】オ 85%○ R4.7月比 3%↑ 【児童】カ 78.6%△ R4.7月比 1%↑ ⑤全国・県学力調査(4月実施) 県平均との比較 3年～6年達成	B	・算数科だけでなく、他教科でも単元の中でより効果的な話し合い場面を探り、話し合いの目的を明確に示すことで、児童が話し合った意義を感じられる授業を行うことができるように校内研修の計画を立案する。 ・協同学習のよさ、必要性を全職員が実感できる研修を4月と8月に実施できるように計画する。 ・朝学習やパワーアップタイムのねらいを再確認し、事前に計画表の確認・担当による助言を行う取組を継続する。	・自己評価は適切である。 ・カ「進んで話し合う・発表する」について、研修に力を入れるということなので期待したい。
2 めあてをもってがんばる児童の育成	④算数科で「見通しとめあて」をもち、ゴールの姿をイメージしながら主体的に学習に臨む児童を育成する。 ⑤効果的な補充学習の時間を設け、思考力・表現力の向上を図る。	④学校評価質問紙と算数科質問紙の肯定的回答の割合が上昇 【児童】エ「見通しをもって」90% 【児童】オ「目的をもって話し合う」85% 【児童】カ「進んで話し合う・発表する」83% ⑤全国・県学力調査、学力定着状況確認テスト結果 県平均以上(正答率)	【児童】エ87%△ R3.2月比 1.0%↑ 【児童】オ82%△ R3.2月比 3%↑ 【児童】カ77.6%△ R3.2月比 0.5%↓ ⑤全国・県学力調査(4月実施) 県平均との比較 3年～6年達成	C	・今年度「生活・家読・運動チャレンジカード」とし、新たに追加した「15分以上運動しよう」という項目において、どんな運動を行ったかを保健だよりで紹介し、運動に対する意識を高める。 ・体力を高めるための運動の動画を運動委員が1人1台端末で撮り、紹介する。	【児童】エ 91%○ R4.7月比 4%↑ 【児童】オ 85%○ R4.7月比 3%↑ 【児童】カ 78.6%△ R4.7月比 1%↑ ⑤全国・県学力調査(4月実施) 県平均との比較 3年～6年達成	B	・自己評価は適切である。 ・カ「進んで話し合う・発表する」について、研修に力を入れるということなので期待したい。	
3 地域とともにある学校づくり	⑦地域の豊富な学習素材の活用や地域の人と結びついたキャリア教育の推進により、郷土を愛する児童を育成する。 (総社を愛す子供)	⑦学校評価質問紙の肯定的回答の割合が上昇 【児童】ケ「地域が好き」93% コ「夢や目標をもっている」90% 【保護者】「夢や目標について話す」80% 【教職員】「意義を理解しキャリア教育を進める」[新設]90%	【児童】ケ 93.5%○ R3後期比 2.4%↓ コ 91.0%○ R3後期比 4.7%↑ 【保護者】79.4%△ R3後期比 5%↓ 【教職員】95%○(新設)	B	・現在進めている教育活動の中に「指導者がキャリア教育の視点を取り入れること」が定着するよう、担当者によるミニ研修の継続、「キャリア教育通信」の発行等行う。 ・家庭でも夢や目標について話す場面ができるように、学校だよりや学年だより、ホームページの「子どもたちの様子」の中にキャリア教育に関する内容載せる。	【児童】ケ 94.4%○ R4前期比 0.9%↑ コ 89.4%△ R4前期比 1.6%↓ 【保護者】82.0%○ R4前期比 2.6%↑ 【教職員】100%○(新設)	B	・キャリア教育に関するミニ研修を継続することで、教職員の理解を促し意識を高める。 ・今年度の担任で、総合的な学習の時間の年間計画を2月中に作成する。その際、地域の学習素材をどこで活用するか、地域の人と結び付いたキャリア教育をいつ行うか等考えながら作成する。	・自己評価は適切である。 ・地域の人々が社会を支えていることを実感できるような活動が行えるとよい。
	⑧学校支援ボランティアを積極的・効果的に活用していくとともに、児童との交流の場や感謝を伝える場の設定をする。	⑧学校評価質問紙の肯定的回答の割合が上昇 【保護者】「学校は学校支援ボランティアを積極的・効果的に活用している」85% 学校支援ボランティア活動実績報告(年度末)学習支援・環境整備の参加ボランティア人数(のべ人数)が150人	【保護者】92.2%○ R3後期比 1.5%↑ 学習支援・環境整備の参加ボランティア人数(のべ人数) 101人(10月31日現在)	B	・10月までに、授業における学習支援ボランティアを4年音楽・図工、5・6年家庭科で募集した。今後も、1・2年算数・生活科、3年図工、6年総合学習で活用していく。 ・ボランティアの方に感謝の気持ちを伝えるために、花とメッセージを年度末に渡す準備を計画する。	【保護者】94.4%○ R4前期比 2.2%↑ 学習支援・環境整備の参加ボランティア人数(のべ人数) 151人(1月31日現在)	A	・次年度は、6月に学校支援ボランティア募集の案内と同時に、学習支援ボランティアの年間活動計画表も配布することで、ボランティア登録者数を増やす。 ・年度末にボランティアの方に手紙を書くことで、自分が地域の中で生活し、地域の人々に支えられていることに気付き、感謝の気持ちをもつことができるようにする。	・自己評価は適切である。 ・保護者以外のボランティアを増やせるとよい。